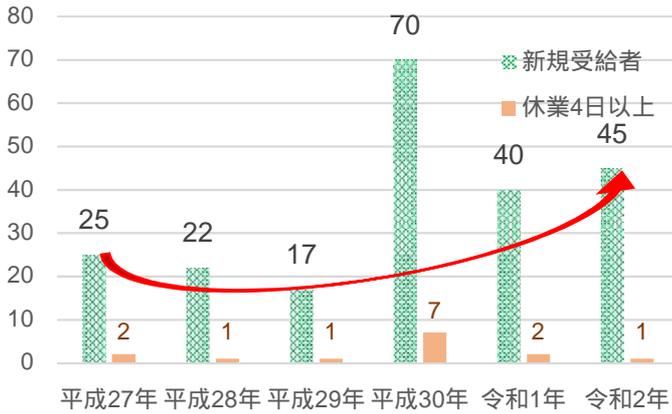


職場における熱中症の発生状況（津市・鈴鹿市・亀山市）

職場における熱中症が増加しています。三重労働局・津労働基準監督署では、「**STOP!熱中症** クールワークキャンペーン」(令和3年5月～9月)を展開し、職場における熱中症の予防を重点的な取組として実施しています。夏季を中心として職場での熱中症が相次いでいます。WBGT値を確認し、熱中症リスクを把握して、熱中症を予防するためのポイントに基づいた適切な熱中症予防対策を行いましょ。

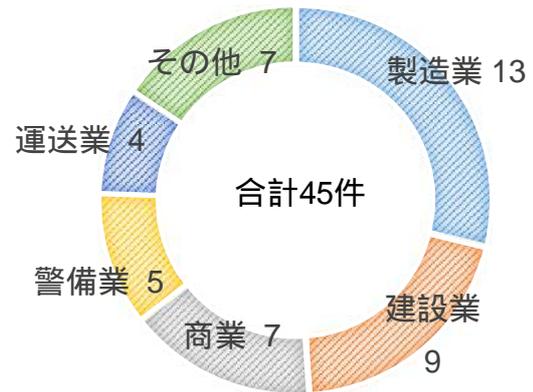
津労働基準監督署管内(津市、鈴鹿市、亀山市)の熱中症の発生状況(令和2年) 表1～5

表1 熱中症による労災保険新規受給者数



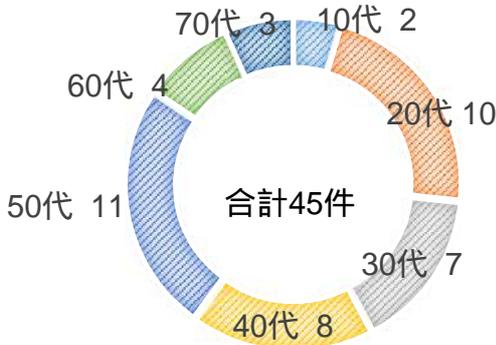
平成27年～29年は、熱中症による労働災害が年間20件前後であるのに対し、直近3年間では毎年40件以上発生しており、増加傾向にあります。

表2 令和2年業種別熱中症発生状況



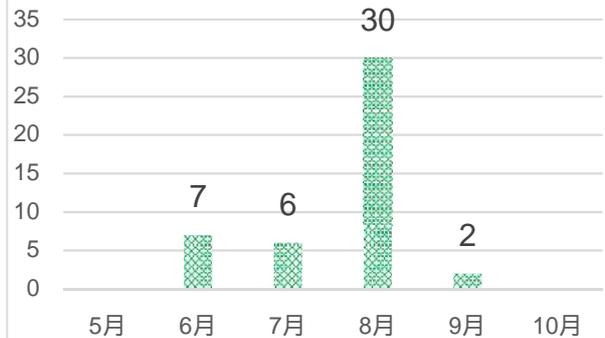
製造業で最も多く発生しています。屋外での作業が多い建設業や警備業だけではなく、商業、接客娯楽業、清掃業等でも発生しており業種を問わず対策が必要です。

表3 令和2年被災者年齢別発生状況



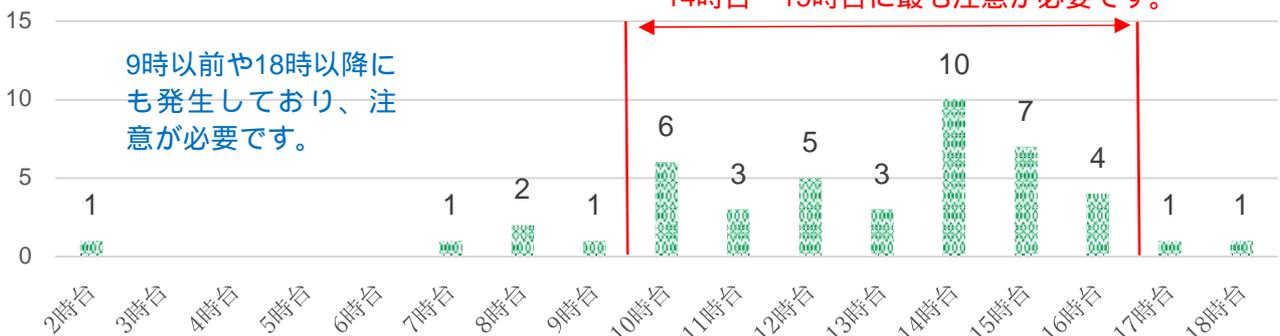
50代、20代の順に多く発生しています。どの年代でも発生しており年齢を問わず対策が必要です。

表4 令和2年月別発生状況



令和2年は8月に発生が集中しており、6月、7月も多く発生しています。

表5 令和2年熱中症時間別発生状況



9時以前や18時以降にも発生しており、注意が必要です。

10時台～16時台に発生が集中しています。14時台～15時台に最も注意が必要です。

STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン

令和3年5月～9月

1 暑さ指数 (WBGT 値) の把握・活用

WBGT (湿球黒球温度) は、人体の熱収支に影響の大きい気温・湿度・輻射熱の3つを取り入れた指標です。また、WBGT 値に応じた作業強度の例は、下表のとおりです。衣類により補正が必要です ()、JIS 規格「JIS B 7922」に適合した暑さ指数計で暑さ指数を計測すること。

(気象庁「熱中症警戒アラート」や環境省「熱中症予防」サイトも参考にしてください。)

作業開始前、作業中、昼休憩後等定期的に WBGT 値を計測し、WBGT 値が基準値を超えるおそれがある場合には、下記2以下の対策を講じましょう。

区分	身体作業強度 (代謝率レベル) の例	WBGT 基準値	
		熱に順化している人	熱に順化していない人
0 安静	安静、楽な座位	33	32
1 低代謝率	軽い手作業、点検、組立て、軽い材料の区分け、フライス盤(小さい部品)、コイル巻き、ゆっくり歩く(2.5km/h以下)など	30	29
2 中程度代謝率	くぎ打ち、盛土、トラックのオフロード運転、建設車両の運転、空気圧ハンマーでの作業、しゅくい塗り、草むしり、歩く(2.5 km/h～5.5 km/h)、鍛造など	28	26
3 高代謝率	重量物の運搬、ショベル作業、ハンマー作業、草刈り、掘る、歩く(5.5 km/h～7km/h)、鋳物を削る、コンクリートブロックを積むなど	26	23
4 極高代謝率	激しくシャベルを使ったり掘ったりする、階段を昇る、走るなど	25	20

- 簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなど暑さ指数を下げるための設備の設置、涼しい休憩場所の整備通気性のよい服装の着用など。
- 暑さ指数が高いときは、**単独作業を控え**、作業時間の短縮や作業の中止、こまめに休憩をとる等の工夫を行う。
- 暑さに慣れるまでの間は、十分に休憩を取り、1週間程度かけて、徐々に身体を慣らすこと。(**盆休み明け等長期休暇明けや入職直後については、注意が必要。**)
- のどが渴いていなくても定期的に水分・塩分を摂取すること。
- 作業開始前や休憩中にあらかじめ身体温度を下げ、作業中の体温上昇を抑える **プレクーリング** の実施。
- 糖尿病、高血圧、心疾患、腎不全、精神・神経関係の疾患、広範囲の皮膚疾患、感冒、下痢等の症状があると、熱中症にかかりやすくなることから、医師の意見を聴取して人員配置を行う。
- 前日の **飲みすぎ** はないか、**寝不足** ではないか、当日は **朝食** を取ったかについて、管理者が確認する。
- 熱中症に係る安全衛生教育を定期的に行うこと。
- 作業中は管理者はもちろん、作業員同士もお互いの健康状態をよく確認すること。
- 管理者は、WBGT 値を確認し、巡視を行い水分・塩分の摂取状況や体調に問題ないか確認する。
- 屋外では、新型コロナウイルス感染症予防の観点から人と十分な距離(少なくとも2m以上)を確保できるような作業方法等を工夫する。確保できないときは、作業強度等を踏まえマスク等を選択し使用する。

異常時の措置～少しでも異変を感じたら～

- ・いったん作業を離れる。
- ・病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ。
- ・病院へ運ぶまでは一人きりにしない。

衣類の種類による補正值

補正值	作業服	つなぎ服	つなぎ服 暑湿の付いた服(不換装型)	つなぎ服 暑湿の付いた服(換装型)	繊維の層を複数 重ねた服	つなぎ服の上に着用する 空調服(空調服)の着用	暑湿の不透過性な服 (アトム等の)	暑湿の透過性な服 (アトム等の)	暑湿の透過性な服 (アトム等の)	服の上に着用して 不透水性の膜を 付けた服	フード付き服装
0	0	2	0	3	4	10	11	12	1		